

# 平成30年度 学校研究

## 1. 研究主題

**確かな学力を身に付け、すすんで学び合う子どもの育成(2年次)**

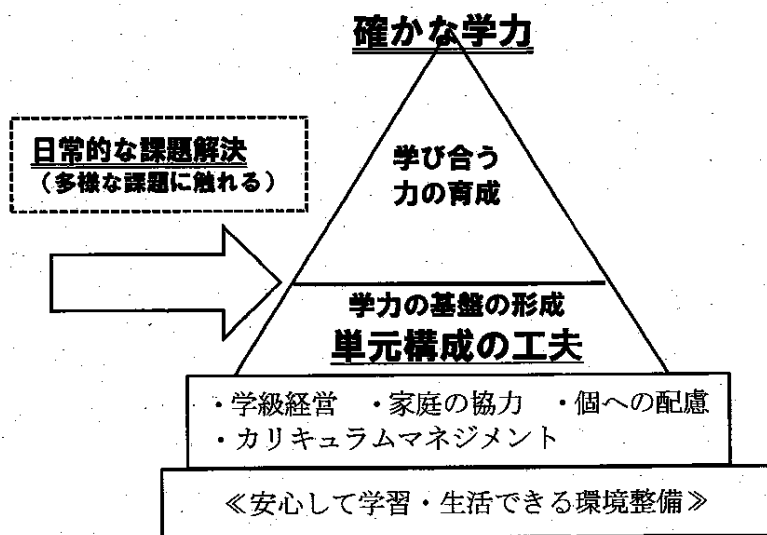
## 2. 主題設定の理由

本年は、『確かな学力を身に付け、すすんで学び合う子どもの育成』の主題で行う、3年次計画の2年目である。昨年度までは、教材・子ども・教師それぞれのかかわりの中で意欲的に学ぶ子どもの姿を、実践を通して確認し合うことができた。

子ども達に昨年12月にとったアンケートから、上学年・下学年ともに8割～9割の児童が、算数の勉強が「わかる」「だいたいわかる」と答えている。また、上学年・下学年共に算数の勉強が楽しいと感じるのは、「難しい問題がわかったとき」と答えている児童が多かった。子ども達が、算数を楽しいと感じて、難しい問題に挑戦する意欲が高まってきていることは、大きな成果と言える。

しかし、「算数が生活に役立っている」と実感している児童は、3割にも満たなかった。つまり、授業で習ったことが、生活の中で生かされていないのである。また、授業では与えられた課題を解き、その時は理解しても、実際に活用することに気が付いていなく、課題を自分ごととして捉えていないことから、算数で学んだことが生活に生かされているという実感ができないということが課題なのではないかと考える。

そこで今年度の研究では、視点①にある「学力の基盤の形成」の中でも「単元構成」に力を入れたい。「やらされ感」のある学習から、算数の良さに気が付き、課題を自分ごととして捉えられ、思わず「数学的な見方・考え方」を働かされるような「発問の工夫・課題提示」や単元の中のどこの場面にそういった課題を解く時間を設けるのか吟味し、見通しを持って取り組むことに力を入れていく。また、授業だけでなく、クラスタイムや自学などでの「日常的に課題解決の機会」を設け、発展的問題や難問などの課題に触れていくことを取り組んでいく。これらの手立てを講じて学力の基盤を作り、研究主題のゴールである「すすんで学び合う」子どもの姿を追求していきたい。



## 3. 「単元構成」について

算数の中の1つの単元を通して、研究主題に迫る手立てについて単元構成を吟味して見通しを持ち、子どもの姿を追っていく。また、それを指導案にも明記するとともに、子どもの変容をふり返り、効果的な手立てを共有しながら実践を重ねていくようにする。

## 《「単元構成」の切り口》

### ①発展的な課題を取り入れた授業や単元の構成

→児童の実態や教材の特性、教師の願いを踏まえ、単元のどこに組み込むか考え設定する。

### ②授業で取り上げる課題の工夫

→児童にとって身近で実生活に結びつき、児童が自分ごととして向かえるような課題を設定する。

### ③逆思考のパターン

→公式から自分の考えを導き出す。友達の考えを自分の言葉で言い換える。

### ④自分の考えを表現できる方法

→算数用語を使い、自分の言葉で順序立てて話したり書いたりする。

※ これらの手立てを、単元の中のどの場面で行い入れるのかを明記する。

## 4、めざす子ども像

①基礎的・基本的な知識及び技能を伸ばし、自分の学びとして深めようとする子。

②自分の学びを活かして、友達とすすんで学び合おうとする子。



### 《すすんで学び合う子どもの姿・反応》

- ・ぼくはこう思うんだけど、みんなは思う？ ・これって、あの考え方が使えそうだ。
- ・ここまではわかるんだけど、ここからどうすればいいんだろう。 ・ぼくの考え方と同じだ。
- ・ここまでは同じだけど、ここからちがうなあ。 ・これって、言い換えるとこういうことだね
- ・これった、〇〇の場面でも使えそうだなあ。

## 5、研究の視点

### 視点1「学力の基盤」を身に付けさせるための手立て

- ・単元構成の工夫・・・算数が生活に結びつくような課題を、どこに入れるか見通しを持つ。
- ・まとめの仕方・・・学年に応じたまとめのやり方。
- ・日常的な課題解決の場の設定・・・クラスタイム、自学を活用。
- ・一斉指導の中で、UDの視点を取り入れる・・・視覚化、授業の見通しなど。

### 視点2「すすんで学び合う力」を身に付けさせるための手立て

- ・学び合いの雰囲気がある学級づくり（日常）
- ・語彙力を増やす工夫（日常）
- ・考えを伝え合う手立ての工夫
- ・学習形態、場の設定の工夫

「確かな学力」とは （参考 「2020年からの教師問題」 石川一郎書）

①主体性を持って友達と協働して学ぶ態度。

②自ら答えを見いだしていく、思考力、判断力、判断力

③十分な知識・技能

すすんで学び合う

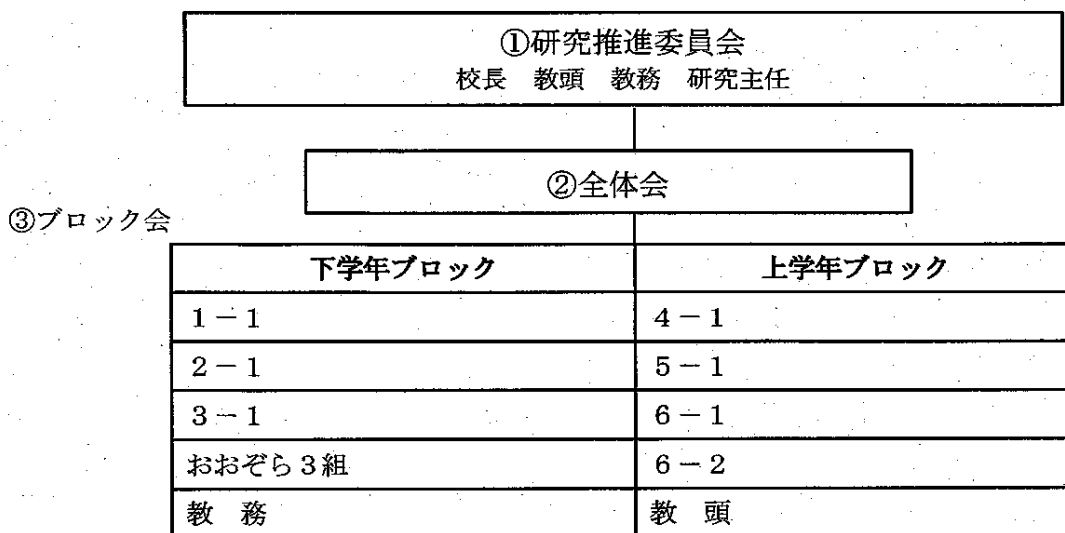
学力の基盤

## 6、研究の進め方

- ①事前研では、授業者だけの研究にならないようにブロックで意見を出し合い、研究が深まるように話し合いを進めていく。その際、「単元構成について」や「学習課題のおろし方」、「授業展開」などについて視点に沿って話し合う。ブロックは、上学年、下学年の2ブロックとする。
- ②授業研は一人1回とし、正案を書いて授業を行う。指導案には、視点を受けた課題を具現化する手立てを明記し、事後研ではその成果と課題について話し合う。事後研は全体会として行い、2つの視点に沿って授業者の手立てが有効だったか、良かった点や一緒に考えていきたい点について話し合う。
- ③事後研の司会・記録は輪番制とし、成果と課題を明確にする。記録者は、1週間以内に担当者に提出し、データ(紙ベース)を研究主任まで出す。

○酒田市教育委員会の研究委嘱「単元」研究の委嘱を受け、東北福祉大の菅原敏彦教授に指導を頂く。  
すべての授業研究会に参加していただき、指導を頂く予定である。また、研究授業の一部を、外部に公開しなければならない。

## 7、研究の組織



### ①研究推進委員会

- ・学校研究推進のための企画、立案、研究の方向づけを行う。
- ・授業実践に活かすための基礎資料を作成する。また、実践内容や資料を整理・保管する。
- ・1学期中に各学年で単元構成を考え、実践し、子どもの反応や意識、成果と課題を共有していく。

### ②全体会

- ・研究の具体的な進め方や授業について協議し、共通理解を図る。

### ③ブロック会(上学年、下学年の2ブロック)

- ・研究の進め方、指導案、単元構成、授業について話し合い、研修を深める。
- ・年間4回の授業研究を行う。研究についての意見交換をし、今後の授業実践に役立てる。

## 8、今年度の予定

|    |               | 月 日       | 内容 授業者(下学年・上学年)                 |     |
|----|---------------|-----------|---------------------------------|-----|
| 1  | 第1回 研究推進委員会   | 4月5日(木)   | 30年度の研究方針を検討する                  |     |
| 2  | 第1回 学校研究全体会   | 4月8日(日)   | 30年度の研究について提案する                 |     |
| 3  | 第1回 ブロック会     |           | 授業研の授業者を決める                     |     |
| 4  | 1回 授業研究事前研    | 5月1日(火)   | 2—1                             | 4—1 |
| 5  | 1回 授業研究会 校内算数 | 5月25日(金)  |                                 |     |
| 6  | 第2回 研究推進委員会   | 7月 日( )   | 1学期中の実践・成果などを話し合い、2学期の方向づけを行う。  |     |
| 7  | 2回 授業研究事前研    | 8月29日(水)  | —                               | —   |
| 8  | 2回 授業研究会 校内算数 | 9月28日(金)  | おおぞら                            | 6—1 |
| 9  | 3回 授業研究事前研    | 10月1日(月)  | —                               | —   |
| 10 | 3回 授業研究会 校内算数 | 10月15日(月) | 1—1                             | 6—2 |
| 11 | 4回 授業研究事前研    | 10月22日(月) | —                               | —   |
| 12 | 4回 授業研究会 校内算数 | 11月22日(木) | 3—1                             | 5—1 |
| 13 | 第3回 研究推進委員会   | 1月8日(月)   | 今年度の反省と、来年度の研究方針について研究全体会に向けて検討 |     |
|    | 研究実践のまとめ      |           | 「研究実践集」実践のまとめと提出                |     |
|    | 学校研究全体会       |           | 30年度の成果と課題、来年度の研究について           |     |

## 9、今年度、全体で取り組んでいくこと

### 授業で

- ・単元構成を考える (学期に1つ、算数の中で単元の中で、数学的活動の楽しさや良さに気が付くような課題を組み入れる。)

→それぞれの学期で、「算数」の単元構成を考えていく。

授業研をする人だけでなく、全員が実践してみましよう。ふり返りも行い、その後の指導に活かしていけるようにしたい。

算数のどの単元 (どの時間) でやるのか。「児童の実態 (興味関心)」や「教材の特性」、「教師の願い」を踏まえて考えていきましょう。

- ・まとめのあり方 (下学年:「今日何を勉強したか」を言える。上学年:自分の言葉でまとめを書ける 等)

→算数の用語を使って、自分の言葉でまとめられるように、1学期から継続して取り組んでいく。

### 日常で

- ・自学の内容 (週末に、発展問題や難問などの課題を宿題の一部にし、おうちの人と一緒にやってみることを継続していく。)

→算数的思考力の向上や生活に活かされていることに気付くような課題を、自学で継続してやっていく。

例:土日の自学の一部に、おうちの人とやってみるよう発展的な問題や児童の身近な場面を題材にしたプリントを用意し、継続して取り組んでいく。